

芭蕉

—  
蕪村



MICHIAKI MOCHIZUKI  
EXHIBITION  
望月通陽展

2025 10.6 (月)



11.21 (金)



第444回

ぬましん  
ストリート  
ギャラリー



第444回 めましんストリートギャラリー

## 望月通陽展

美の往還—芭蕉・蕪村  
2025.10.6 Mon — 11.21 Fri



沼津信用金庫本店  
410-8610 沼津市大手町5-6-16  
tel : 055-962-5200

沼津信用金庫本店のストリートギャラリー  
JR沼津駅南口より徒歩5分  
夜10時までライトアップ



めましんストリートギャラリー  
<https://www.numashin.co.jp/street/>

望月通陽(1953-)は、型染、彫刻、版画、ペン画など、多彩な技法を自在に操り、独自の表現世界を築いてきました。光文社古典新訳文庫の表紙画をこれまでに400冊以上制作し、カント、ドストエフスキー、カフカ、清少納言など東西の古典文学を丹念に読み込み、物語の核心を捉えた一場面を絵画として昇華させています。

今回、望月が新たに挑むのは、俳聖・松尾芭蕉と与謝蕪村の俳句です。芭蕉の簡潔で研ぎ澄まされた句と、蕪村の絵画的構図と詩情豊かな句——千句を超える作品群から心象風景をすくい上げ、句に宿る情景や感情を新たな絵画へと結実させました。静岡県葵区で生まれ育った望月。その土地はまた、染色の巨匠・芹沢銈介(人間国宝)を育んだ地でもあります。芹沢の簡潔な造形に芭蕉を、望月の豊かな絵心に蕪村を重ね合わせる見方もできるでしょう。

望月通陽のまなざしから生まれた、文学と美術が響き合う世界を感じる貴重な機会です。ぜひご堪能ください。

ギャラリーやまほん  
山本 忠臣

### 作家プロフィール

望月通陽1953年静岡県生まれ。染色、陶芸、ガラス絵、紙版画、リトグラフ、木彫ブロンズなど、多様な手法を用いて独自の作品世界を築いている。「宮本輝全集14巻」など装幀を手がけ、1995年講談社出版文化賞ブックデザイン賞受賞。光文社古典新訳文庫の表紙画など、絵本や挿絵の仕事も多数。画文集「道に降りた散歩家」で2001年ポーロニャ国際児童図書展ラッツ賞受賞。作品集に「円周の羊」、「Mの辞典」など。

- 1 芭蕉野分して 壺に雨を聞夜哉 芭蕉
- 2 一人来て一人を訪ふや 秋のくれ 蕪村
- 3 蟻蛾へ帰る人は いづこの花に暮し 蕪村
- 4 一行春の いづち去けむかゝり 舟 蕪村
- 5 一八九間空で 雨ふる 柳哉 芭蕉
- 6 一秋深き 隣は何をする人ぞ 芭蕉
- 7 一雲の 峰幾つ崩て 月の山 芭蕉

6		3	1
	5		2
7		4	

表紙